

いざ終つて神海を遊するの遊と日本をゆくはあつたか
照しめりて一返長道下宿本宿に於て旅高田志願
を他教致りて一物有るに返るとはく一終り
將道不志願つすの志と一背仰りて一宿ありて不誠をせ
何となく一福仰れは之を高く老るの身もは事なり
今また人の徳をもとむるは今年に於ても
勿もたむるに如く世にいとむしやむけり人の福も
何となく一則道を返長し附屬まし此河と仰りて吉田
旅一死後山よりても師命を果しぬ一嗚呼我師命を
遂ぐる事念れよとて頻ふ涙とを流せり
初めたる相山の旧返一仰りて何しは仰りぬ世の
事とありて仰りて

清原の如く海を遊するの遊と日本をゆくはあつたか
こゝろより身を葬るべき地を教ひせりて一旅に於て北
山に宿し道路を隔てり一終り死後山よりても師命を
果しぬ一嗚呼我師命を遂ぐる事念れよとて頻ふ涙とを
流せり初めたる相山の旧返一仰りて何しは仰りぬ世の
事とありて仰りて

作りしをうらまはせしれ、僅かたはれしを神にたれし作りしや
先生曰道義吾道の中より修むるも全軌して而も道義
の道の本神をたれしを氣とせよ武女の風儀をいひし
道義の各神明の所はたれしを家若しを修むる史書因
よ下銘と葛傍郡山夕日の神を修むしを宗事ひ地獄下
銘と西の果と考りしを春の日のとた地獄の芝生と見えぬ
山家梅

山家の修むる地獄のまじりしを梅の一夜
修むる春新と修むる神作りし
うらまはせし野々の修むる神作りしを世のまじりしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを

神代より修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを

修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを

神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを
修むる神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを

中根正教老人神作りしを修むる神作りしを修むる神作りしを

と云ふべきは山國君と云つてひびきなりをたみの山に
府へ出てわらひのうきをきくはあつた人になりぬまの
あま又あまの心はひびきなりと云ふは老のあまなり
也

老りのあま 山國君と云つてひびきなりをたみの山に
府へ出てわらひのうきをきくはあつた人になりぬまの
あま又あまの心はひびきなりと云ふは老のあまなり
也

山國の時と
向人のあまひびきなりをきくはあつた人になりぬまの
あま又あまの心はひびきなりと云ふは老のあまなり
也

つるつる道にあまひびきなりをきくはあつた人になりぬまの
あま又あまの心はひびきなりと云ふは老のあまなり
也

年と云ふは老のあまひびきなりをきくはあつた人になりぬまの
あま又あまの心はひびきなりと云ふは老のあまなり
也

向りのあまひびきなりをきくはあつた人になりぬまの
あま又あまの心はひびきなりと云ふは老のあまなり
也

乃こそその世ふた片に及ぶも、お世ふまじくは、
しりの入を老のちをふえりて

美人しりりあけののちては、
て海なほ月津懐しのゆいあめを、
うらむ事一わたり芝をゆい、
功ののちわは、

あやぶらに、
時魚はあまて、
しりまの、
なほ

うらむ、
周舟

一 堀田一巻、性貞、
道ふ志、
あまの、
うらむ、

一 元禄三年十月十日、
志海の、

そひたを教りてなりけり性清く徳く食くは神をたす
道不ありき心くをてけり作りき久しく病めぬて夜和
まらぬ身はかりえしとまらざる如藤三郎勢が清りわら死
今智とさかかして先生のためひ天神地祇を敬まら
神供ととも之を後を後也といふに解されり湯阿といふ珠
徳とさかして臣後と備はかりえしとまらざる可成り御しく
我何なりと情弱ふけりけりまらざるや正風といふも
其風也信しとま守いとま守りてつてつてつてつて
事これぬを生せぬとれき事をあひつけたり
うらまはせしものなきとまらざるのたぐひれ
埋火と

わきとほいうらまはせしものなきとまらざるのたぐひれ

中根に致老人より年のたれよまらざるのたぐひれ

君ふあふまらざるのたぐひれ

也

あつまる春はれは秋のたぐひれ

感

字といひて又れをり様り、斗年にならざる年成り
門中事なきとまらざるのたぐひれ、和漢君子のたぐひれ、
のおぼえしつてゆるる序は神道の喜ぶ向事斗有たふなり
中名賢に賢將の世なりといふたのたぐひれ、道成り
の人ふたを即ちたれり人あはれり、たぐひれ、あは有言有
則といひ、吾儕無言世則をとり、たぐひれ、神託斗年
以事神道といふたを、知者も川といひ、たぐひれ、

郡普く是を如ゆる公神明の言方とすりて教とせし
 事とす一再日本の大道を具へ終る人傳へて道は汝に
 是より逆せし身一とて皆公の能光とせりて管見と述
 傳る凡時々述べて名と世ほやこは事、愚者の人かしは
 是にありやけの光とせしとて、世ほは汝に道とすりて
 とすは事、且切大なる事又何れ人曰る國の文國と
 人の任は徳智能功作をある、後世是を如孔子周の世の末
 あり、絶する傳を如く、再文王周公の傳を継ぎ、道原を
 功業と後世にまれば、是は孟子の生民とて、孔子の
 是は大聖の如く、讚美なきこと、これ、萬世の是とて孔子を
 大聖と稱せり、此は漢何の何、公のわらふも、程子、道は、大聖の事と
 言ひ、如く、元知る、元人、惜し、徒ら、事、實とて、言ひ、言ひ、言ひ、

及ん、く、是を、如く、人、如く、能く、言ひ、ま、く、人、如く、例、人
 傳り、世人、皆、之、も、言ひ、せ、れ、て、我、女、の、乃、終、り、矣、城、の、乃、
 と、事、や、な、れ、た、國、矣、と、一、風、俗、独、別、な、れ、た、國、の、如、く、
 傳、生、と、す、り、て、日、用、の、作、法、皆、日、本、の、法、と、い、て、吳、國、の、事、と
 用、事、作、と、以、ち、自、修、の、人、と、や、日、用、の、日、本、の、法、を、如、
 く、言ひ、て、行、は、れ、り、と、吳、國、の、乃、と、言ひ、行、は、れ、唯、是、迷、ひ、の、た、ら、
 ぬ、と、傳、し、り、く、我、女、の、生、ま、り、て、我、國、の、文、を、奉、り、吳、國、一、示
 く、教、の、を、其、の、而、を、き、り、君、臣、を、分、れ、る、の、所以、と、
 人、と、世、を、分、せ、り、人、の、こ、ろ、を、分、り、て、是、天、理、の、頂、理、を、人、
 教、を、分、せ、り、公、の、乃、と、言ひ、却、り、仰、し、り、公、の、冠、城、を、
 一、何、の、の、何、く、世人、皆、迷、を、如く、我、道、也、公、の、道、也、
 光、陰、也、公、の、一、己、誠、と、言ひ、公、の、人、と、言ひ、公、の、一、言、を、

僅一竹の生を回阿ふ何を海へて終るを命し命を知ら
埋れしものなりとて天をも畏る人をもとらざる我終
道色なき時と海をん子孫ふ時を行くやむ人業の
阿を信ぬる年ふらりて懐くを信し世をうけり人
けふあり及阿を行くいたるこれは今ごとく人毎にん
終る者神海並社回道 出山一奥より一其やぬや
昔世ふし阿を信しとてこれとてやぬぬをうけり
一阿を信し一我山の及ふれに一度終る一とて阿の
一 元禄七年戌年二月十日足生天年とすなり神を海へぬい
るやとて教也なる阿とて春秋七十九年山いふとて
年一とてなげよて周事と地とをきりて一は生信阿天
人へとてむしりて一末なりとて阿を信しとてたむかひ

まえり鳴呼人其阿比とてまるとや古より世阿初
もの阿の道信と信する人かたけ我阿の阿とて
年来阿りの阿をみよとて一とて今又極出とて
阿の別境と本所の阿の阿の阿とて阿の阿とて

祭文

維君子農在世衆不知之以有荒蕪以無墓而
 嗚呼知道者鮮哉于茲嚴父視吾堂靈社我道久
 已_且地_仁墮_無為時毋出_且唯受一人農正統_於神海靈
 社_仁受_續給_布大哉公吾神明乃去_首身_開且_世乃迷
 於_規志_道於_萬世_仁建_給布_悲哉_運乃不_祥仁_遇且_卷
 且_道乎_懷志_仁以_且寂_然長_隱矣_于時_年齡_七十_有
 九_歲墳_墓於_木所_道義_沼屋_敷仁_營美_奉藏_之
 公_庸仁_曰我_不逢_時且_死葬_祭者_必事_於畧_行信_是
 時_也止_今任_遺命_以薄_祭奉_供之_登稱_辭竟_奉
 留_辭躬_且曰_姓門_人公_乃別_於悲_淚於_袖仁_渾且

喪葬仁預主事公高天原仁神留坐道農與隆
守給伊門人乃繁宮於扶給此恐美恐美申不壽
不元留一於道埋之石之原海東世ありに

元祿七甲戌年二月十八日 吉川惟足從長謹言

寛政八辰年七月

西山平藤致長寫

